

月刊 あなたにこの **本** を！ 平成 20 年 **11** 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ

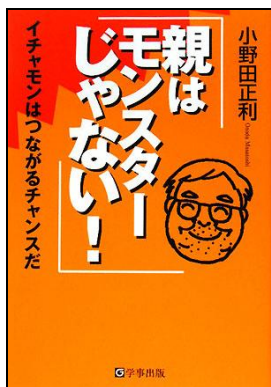


…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの()内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



親はモンスターじゃない！

—イチャモンはつながるチャンスだ—

小野田正利 著

学事出版 1470 円 (0011676585)

ジャンル：現代社会を見つめる

学校や教師に理不尽な要求を突き付ける保護者を「モンスターペアレント」と呼ぶ風潮が高まっている。だが教育学者の著者はこの呼び方を真っ向から否定。排除対象と断定し、関係改善の糸口を失ってしまうからだ。学校も親も、解決へ向かうためには冷静さを保ち、手を携えて欲しいと説く。テンポのよい文章に、重いテーマを明るく語り合いたい、という著者の意欲がうかがえる。保護者へのアドバイスや学校へのエールも記され、勇気付けられる。〔374.6〕



日傘こころ模様

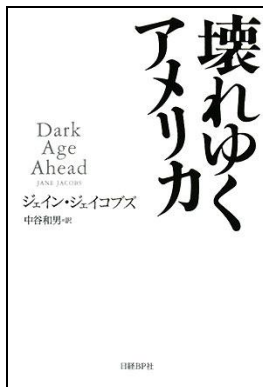
—着物で仕立てた傘のものがたり—

小堺正記 著

小学館プロダクション 1575 円
(0011689197)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

古い着物をほどこき、日傘へと生き返らせる傘職人鎌田智子さん。評判を聞き、彼女のもとには全国から多くの依頼が舞い込む。本書は、彼女と依頼主の交流を紹介したドキュメンタリー番組を書籍化、放送されなかった彼女の半生などを加筆したものだ。震災で命を落とした娘の生きた証として、命の恩人への贈りものとして、各々の願いがこもった傘が美しく花開く。鎌田さんの実直な仕事ぶりと温かなこころの交流に胸が熱くなる。〔589〕



壊れゆくアメリカ

ジェイン・ジェイコブズ 著 中谷和男 訳

日経 BP 社 日経 BP 出版センター(発売)
1995 円 (0011654100)

ジャンル：現代社会を見つめる

地域コミュニティの破壊に抗議し、在野の立場から声をあげつづけた著者が、現代アメリカのひずみを論じる。例えば、都市改造によりコミュニティが破壊され、自家用車への依存や住宅の取得などが家計を圧迫、家族は孤立化し、生活破綻(はたん)がすすむと主張する。彼女の遺作となった本書は、長年の活動と提言の集大成でもある。原著は 2004 年に刊行されたアメリカに対する警告の書ではあるが、現代日本に対する警告としても、多くの示唆に満ちている。〔302.53〕

男読み源氏物語

高木和子 著

ジャンル：知識・教養を深める

朝日新聞出版 777 円 (0011685091)

源氏物語について、女性である著者があえて男の登場人物に注目し、男性の視点をまじえて読み解いたのが本書だ。あらすじや登場人物からではなく、「できる男の情熱」など6つのテーマに沿って人物や物語をわかりやすく紹介。また、当時は一夫多妻や通い婚ではなかったという最近の学説をふまえた解説もある。源氏物語に魅了された著者が、この物語のもつ深みと豊かさを、読みやすい文章で十分に伝えてくれる。巻末に概説や人物紹介等の資料編あり。〔913.36〕

戦時演芸慰問団「わらわし隊」の記録 ―芸人たちが見た日中戦争―

早坂 隆 著

ジャンル：歴史・文化に親しむ

中央公論新社 2310円 (0011684313)

日中戦争の最中、吉本興業の慰問団「わらわし隊」は、中国に渡り戦地を巡業した。柳家金語楼ほか一流の芸人がそろった一団は、各地で大変な歓待を受ける。兵士の笑顔を励みに、銃火の中を転々とする。彼らの実像を、著者は資料や証言を集め、足跡を訪ねて描きだそうとする。その中では、当時の世相や戦時に生きる人々の姿、荒れた戦場の様も映し出される。一時の笑いに命をかける芸人魂に感じ入るとともに、人が起こした戦争の不条理さを思う一冊。〔210.7〕

世界遺産と地域再生 ―問われるまちづくり―



毛利和雄 著

ジャンル：暮らしにうるおいを

新泉社 1890 円 (0011655698)

石見銀山の世界遺産登録をきっかけに、日本では郷土の遺産を活かしたまちづくりが注目を集めている。本書では、瀬戸内海に臨む美しい景観を保護する条例をつくり、世界遺産にふさわしいまちづくりに取り組んだ尾道など4つの地域を紹介。長年文化財報道に携わった著者が、各々の事例をもとに、町並みの保存・再生へと方針を転換しつつある地方都市の活性化策について考察する。世界遺産登録をめざす他の地域の最新動向についてもよくわかる。〔709〕

仕事道楽 ―スタジオジブリの現場―

鈴木敏夫 著

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

岩波書店 777円 (0011691276)

スタジオジブリの映画プロデューサーとして、ヒット映画の制作に携わる著者が、以前受けたインタビュー記録も交えながら自身の仕事を語る。編集者だった彼が、高畑勲・宮崎駿の両監督と出会い、彼らの映画制作のための会社設立に尽力し、プロデューサーに転身したのはなぜか？ 両監督がみせる飾らない本音や、印象的なエピソードもおりまぜられ興味深い。映画づくりに熱意を傾け、それを楽しんでいる舞台裏の雰囲気が伝わる。〔778.7〕

人とロボットの秘密

堀田純司 著

ジャンル：知識・教養を深める

講談社 1470円 (0011680030)

自身の感情をしぐさや表情で表す「顔ロボット」。個々に戦況を判断するロボットサッカーチーム。これら、人間らしいロボットの実現には、まず人間そのものを知る必要があったという。著者はロボット研究の第一人者6名への取材から、ロボット工学独自の「人とは何か」への答えを指し示す。著者の得意なキャラクター文化も引き合いに出した解説は、専門知識がなくてもわかりやすい。人のパートナーとしてのロボットへさらなる興味がかきたてられる。〔501.9〕